

あなたの CO₂ CO₂ で認証を

CO₂削減から始める認証推進運動

Team: ビビンパこわい



目次

- 課題認証
- 解決策
- ビジネスモデル
- 従来比較
- ターゲット認証例
- 5カ年収益計画例
- 展望・波及効果
- 参照



課題認識

現状

理想

⇒ 認証はコストが高い
⇒ 認証商品自体が少ない

⇒ 認証品の認知度が低い
⇒ 認証品を選択しない

認証
コスト

消費
者
教
育

企業が自社製品の環境価値を消費者
に明確に伝えられる社会

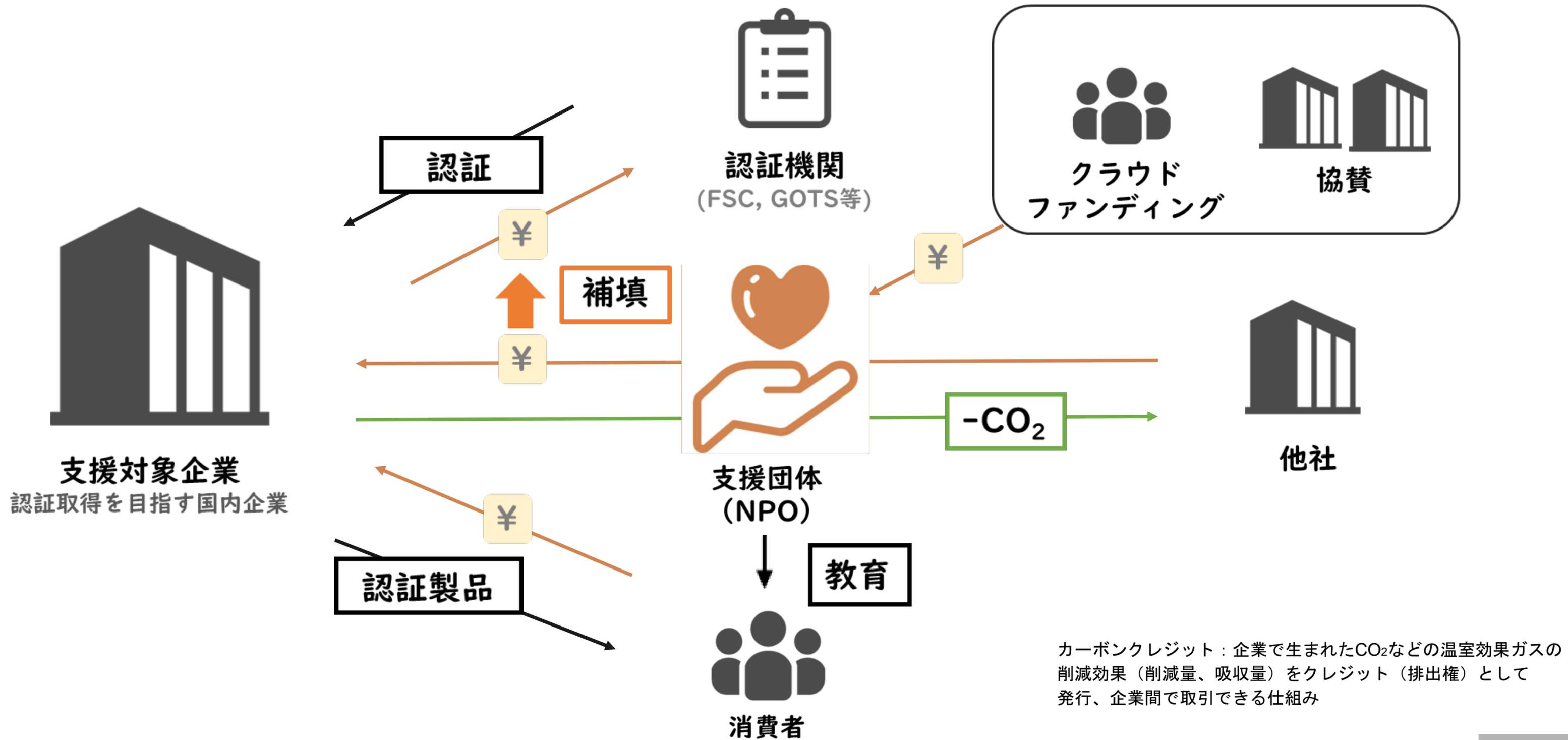
消費者が認証制度を理解して商品
を選択している社会

解決策

認証支援団体 (NPO) の設立

1. カーボンクレジット制度を活用した認証取得支援
2. 気候変動関連の認証についての消費者教育

ビジネスモデル



従来比較

		通常の認証取得まで	新設NPOを介した認証取得
企業	費用	✕	初期費用が高い ○ カーボンクレジット 売却益で補填
	収益性	✕	消費者の購買意欲に つながらない △ カーボンクレジットの収益
	自社PR	—	認知度が低く 環境価値が伝わらない ○ 認知度が上がり 環境価値が伝わりやすい
消費者	認知度	✕	認証についての理解を 深める機会がない ○ 教育が継続的に実施できる

ターゲット認証例

再エネ・省エネの推進が求められている認証



※認証には基準にカーボンクレジットが関係ないことが条件となる

5 年収益計画例

佐伯広域森林組合（製材工場における木質バイオマスによる化石燃料の代替）

削減量：10,235 t-CO₂（2,047 t-CO₂/年）

利益：3322万円（664万円/年）

認証費用内訳

	FSC認証	カーボンクレジット認証
申請費	1000万円	100万円
年間管理費	60万円/年	100万円/年
更新費	1000万円	

	支援なし	支援あり
認証取得費	(1,100)	
管理・更新費	(1,800)	
カーボンクレジット	0	3,322
合計	(2,300)	+422

(万円)

カーボンクレジット売却益でコストを補填

展望・波及効果

認証取得サポート



認証取得への
金銭的なハードル
軽減

認証品の
選択肢増加

認証教育



気候変動関連
の認証を認知

認証商品を選択
する消費者が増加



我々は認証制度導入支援を通じ
持続可能な生産消費活動を目指します

Reference

- Jクレジット 試算例：https://japancredit.go.jp/pdf/jcprd/00138_1.pdf
- Jクレジット 価格：https://japancredit.go.jp/data/pdf/credit_002.pdf
- FSC認証料：<https://www.re-forest.com/hayami/index.html>
- カーボンクレジット手数料：[東京証券取引所 カーボン・クレジット市場の概要](#)